

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察（A中学校 第3学年 2時目）

◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、自分や友達の『強み』を見付け、『強み』の生かし方を考えることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業中の様子等も参考にしています。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたりしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問で、自分や友達の「強み」を見付けたり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問で、自分の「強み」の生かし方を考えることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は71.0%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は25.8%でした（図1）。また、生徒の振り返りシートには、「友達と協力して学習できた」「自分から進んで参加できた」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり、「強み」の生かし方を考えようとしたりしたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は3.2%

でした（図1）。生徒の振り返りシートに意欲に関する記述は見られませんが、他の友達の「星☆

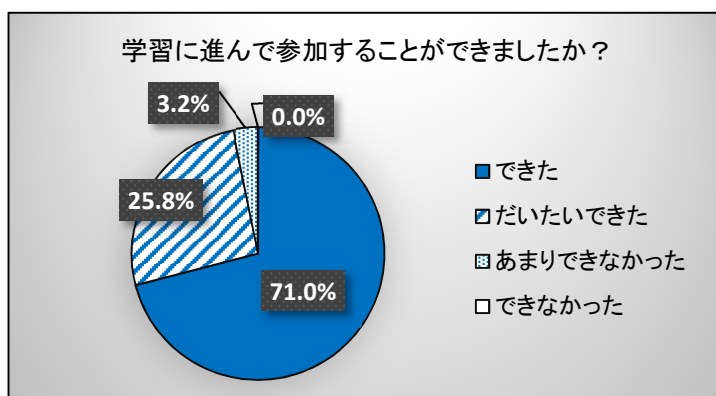


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

いくつ」のワークシートにシールを貼ることができていました。今後も、このような生徒が学習に進んで参加することができるように、グルーピングや個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は 77.4%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は 19.4%でした（図 2）。また、生徒の振り返りシートには、「自分の『強み』を友達から伝えてもらうことで自信が付いた」「友達が自分のことをどのように思っているのかを知ることができた」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知った

り、「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は 3.2%でした（図 2）。生徒の振り返りシートに伝え合いに関する記述は見られませんでした。交流活動では、自分に当てはまると思うものにシールを貼ったり、友達のワークシートに自分が考えたアイディアを書いたりすることができました。今後も、このような生徒が交流活動で自分の考えや気持ちをスムーズに伝え合うことができるように、グルーピングや個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

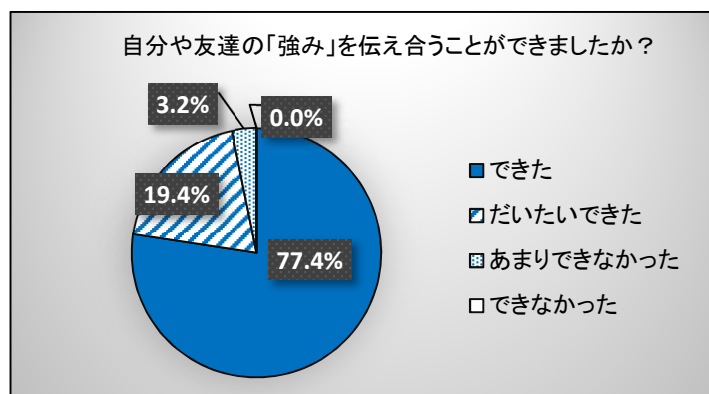


図 2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は 74.2%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は 22.6%でした（図 3）。また、生徒の振り返りシートには、「自分の『強み』を知り、自信が付いた」「シールを貼ってもらって嬉しかった」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。一方、

「できなかった」と回答した生徒の割合は 3.2%でした（図 3）。生徒の振り返りシートに自分の「強み」に関する記述は見られませんでした。交流活動では、友達が貼ったシールを参考にしながら、自分の「強み」だと思えることを 3 つ選ぶことができました。今後もこのような生徒の学習効果を高めるために、グルーピングや個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

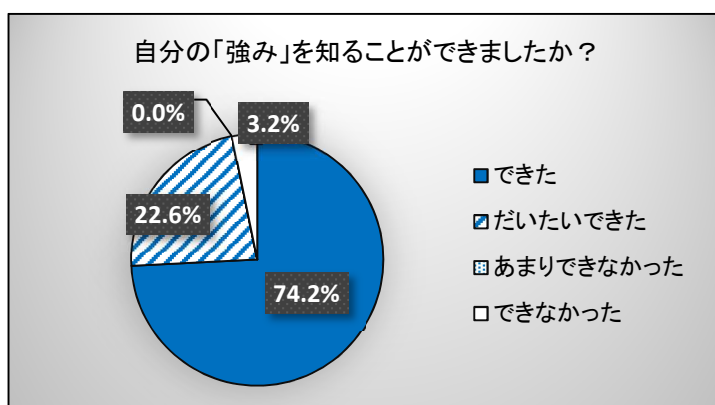


図 3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は80.6%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は19.4%でした（図4）。また、生徒の振り返りシートには、「人にはそれぞれの『強み』があることが分かった」「友達の『強み』を知ることができて良かった」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

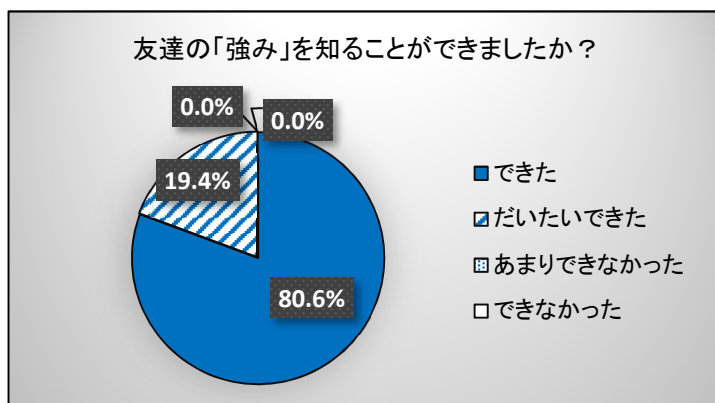


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問に対して、「思った」と回答した生徒の割合は58.1%、「だいたい思った」と回答した生徒の割合は38.7%でした（図5）。また、生徒の振り返りシートには、「自分の『強み』と友達のアドバイスを生かしていきたい」「これからの生活に生かしていきたい」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、自分の「強み」の生かし方を考えることができたと考えます。一方、「思

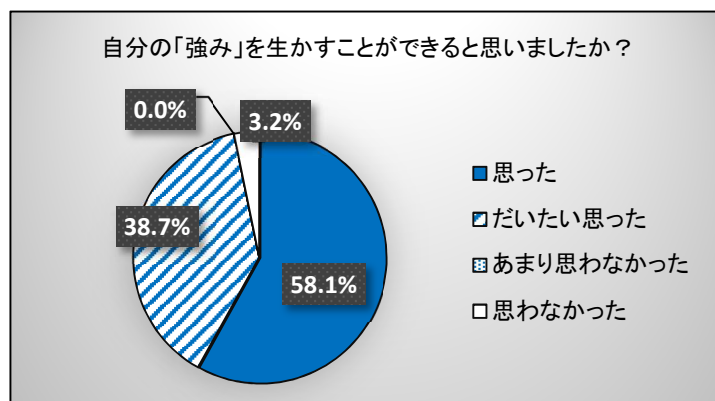


図5 自分の「強み」を生かすことができると思ったかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

わなかった」と回答した生徒の割合は3.2%でした（図5）。生徒の振り返りシートには自分の「強み」に関する記述は見られませんでした。「Step Up Webbing ～解決への一歩～」のワークシートには友達からももらった多くのアイデアが書かれていましたが、「強み」を生かしたアイデアはありませんでした。今後もこのような生徒の学習効果を高めるために、「強み」を生かしたアイデアの例示の仕方や方法を工夫したり、個別に言葉掛け等を行ったりする必要があると考えます。

以上の結果より、2時目の授業において、ほとんどの生徒は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合うことにより、自分の「強み」を生かすことができると思ったことが分かりました。しかし、「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」について、「思った」と回答した生徒の割合は58.1%にとどまりました。その理由として、自分が解決したいことについて、自分の「強み」を生かしたアイデアを友達から書いてもらうことで、「強み」を生かそうとする意欲の高まりは見られた

ものの、生かすことができるという自信をもつには至らなかったと思われます。

このことから、3時目の授業では、1～2時目で見つけた自分の「強み」を整理したり、焦点化したりする活動を取り入れることにより、自分の「強み」を今後に活かしていこうとする意欲や態度の高まりにつなげていく必要があると考えます。

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察（B中学校 第3学年 2時目）

◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、自分や友達の『強み』を見付け、『強み』の生かし方を考えることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業中の様子等も参考にしています。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問で、自分の「強み」の生かし方を考えることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は80.6%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は19.4%でした（図1）。また、生徒の振り返りシートには、「前の授業で気付かなかった自分の『強み』がまだあった」「今日の学習でいろいろなことを学ぶことができた」という記述が複数見られました。これらのことから、生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたと考えます。

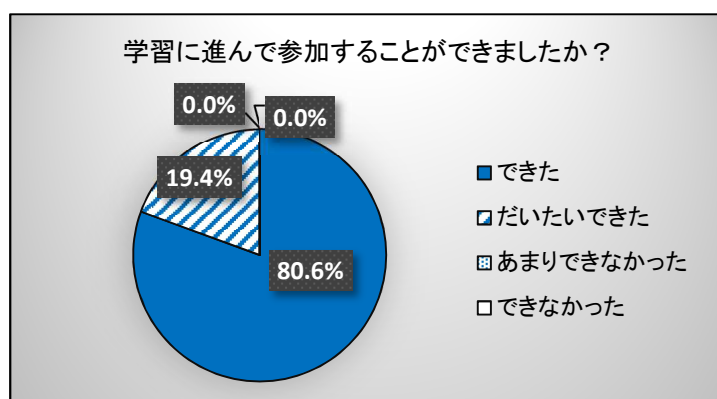


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は 88.9%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は 11.1%でした（図 2）。また、生徒の振り返りシートには、「自分が思っている『強み』と友達が思っている『強み』が違ってびっくりした」「友達にアドバイスをもらったり、悩みを共有したりすることができたので良かった」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

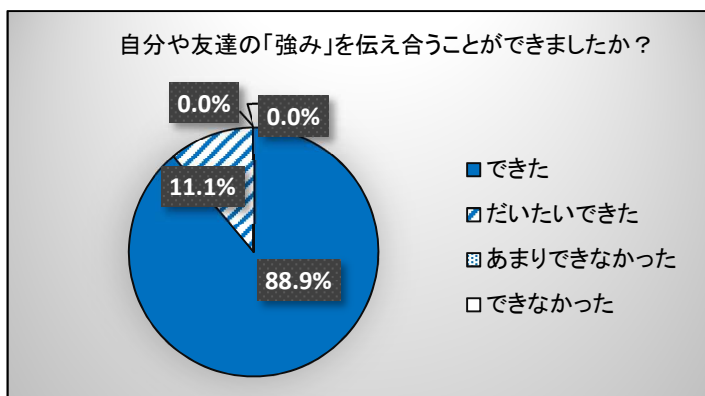


図 2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は 83.3%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は 16.7%でした（図 3）。また、生徒の振り返りシートには、「自分で気付けていない『強み』を知ることができた」「この前とは違う自分の『強み』を知ることができた」「みんなが思っている『強み』と自分が思っている自分の『強み』はだいたい同じだと思った」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。

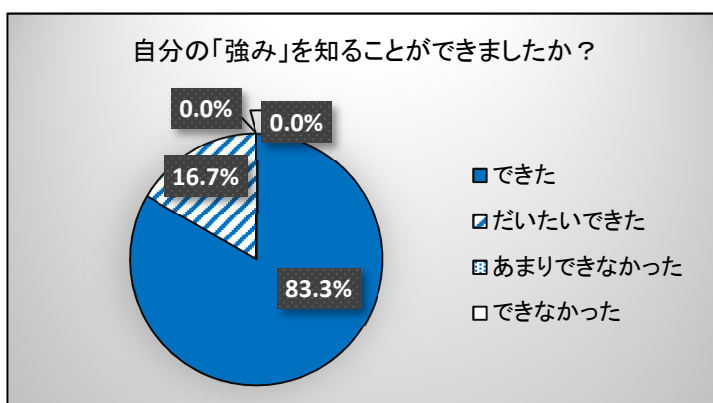


図 3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は91.7%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は8.3%でした（図4）。また、生徒の振り返りシートには、「友達のいろいろな『強み』を知ることができた」「いろいろな『強み』があるのだと改めて感じる事ができた」「友達の『強み』を見付けて、その『強み』を生かした解決方法を考えることができた」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

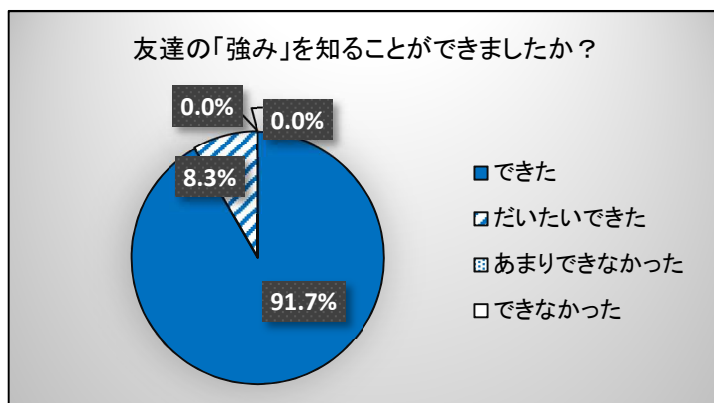


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問に対して、「思った」と回答した生徒の割合は30.5%、「だいたい思った」と回答した生徒の割合は66.7%でした（図5）。また、生徒の振り返りシートには、「自分が持っている悩みを、みんなが自分の『強み』を生かして解決しようとしてくれたのでやってみようと思った」「自分の『強み』を苦手なことや困っていることに生かせることに気付くことができたので、実際にやってみようと思った」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「星☆いくつ」や「Step Up Webbing ～解決への一歩～」の交流活動等を通して、自分の「強み」の生かし方を考えることができたと考えます。一方、「あまり思わなかった」と回答した生徒の割合は2.8%でした（図5）。生徒の振り返りシートの記述には、「自分の悩みの解決方法を友達から考えてもらって試してみようかなと思った」とあり、実際に生かすことが難しいと感じてはいるものの、「強み」を生かしたいと思っているのではないかと推測されます。今後も、このような生徒の学習効果を高めることができるように、個別の言葉掛けや他の教育活動と関連付けた継続的な取組が必要であると考えます。

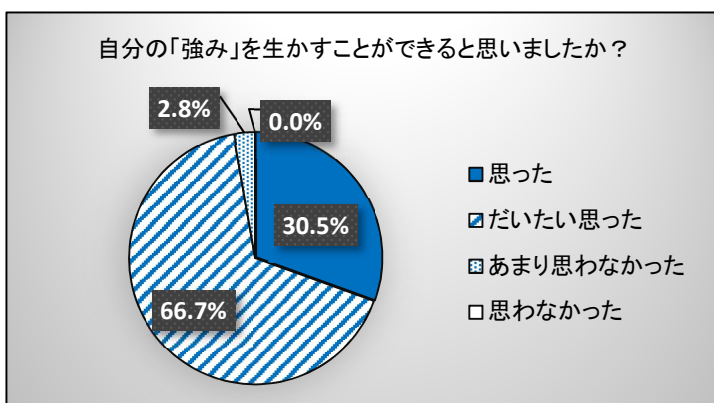


図5 自分の「強み」を生かすことができると思ったかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、2時目の授業において、ほとんどの生徒は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合うことにより、自分の「強み」を生かすことができると思ったことが分かりました。しかし、「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問に対して、「思った」と回答した生徒は、30.5%にとどまりました。その理由として、自分が解決したいことについて、友達から「強

み」を生かしたアイデアを書いてもらうことにより、「強み」を生かそうとする意欲の高まりは見られたものの、実際に生かすことができるという自信をもつには至らなかったことが考えられます。今後は、このような生徒に対して、実態に応じた指導の工夫をしながら、様々な教育活動と関連付けて、「強み」の生かし方を考えることができるような取組を継続していく必要があると考えます。